

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年2月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690300175号
法人名	医療法人昌成会
事業所名	グループホーム詩音
所在地	鹿児島県鹿屋市古前城町9番43号 (電話) 0994-44-2255
自己評価作成日	令和4年1月14日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年2月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム詩音は鹿屋市の住宅街にあり、交通の便や立地に恵まれた施設です。利用者様の日常生活ではラジオ体操、立位訓練、青竹踏み等の機能訓練、お盆拭きや洗濯物たたみ等の日常生活訓練等を実施、規則正しい日課を過ごして頂いています。施設内は共同生活ですが利用者様同士協力し合い、職員との信頼関係を構築して楽しい毎日を送って頂いています。施設内では、誕生会をはじめ季節に応じた行事を計画し、イベント食、季節感を味わえる食事を提供したり、旬の食材を使った料理を提供しています。施設外活動として、初詣、お花見、ドライブ等の外出支援を実施しております。特に運営が医療法人であることから、月2回の訪問診療及び居宅療養管理指導を導入しており、入居後の健康管理や急変時の対応も心配なく生活して頂けます。また、終末期の看取り介護も実施しており、住み慣れた施設で最後まで生活して頂くことができます。昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、ご家族の面会を制限したり、外出支援が思うように出来ず、利用者様、ご家族にもご不便をおかけしています。ご家族には月1回の施設便りや電話連絡、携帯のライン等で(写真)情報お伝えし情報共有しています。利用者様には、家族との面会、外出もできない事でストレスにならないように、施設内の行事や活動に工夫をこらし、明るく楽しい毎日を笑顔で過ごして頂けるよう努めています。職員は、感染症を持ち込まないためにマスクの着用や手指消毒、施設内の掃除や消毒を今後も感染防止に努めていきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿屋市の中心地の一角に、平成21年に開設されている。幹線道路から少し入っており個人住宅に囲まれた閑静な環境であるが、幹線道路沿いには金融機関や医療機関、商業施設等が立ち並び、利便性は十分である。法人母体の協力医療機関とは、24時間医療連携の体制を構築し、早期の治療や相談、健康管理等を徹底しており、利用者や家族の安心に繋がっている。

地域密着型事業所として、開設以来、地域との交流を大切に取り組んでおり、自治会に加入して情報の把握に努め、通常は地域行事等への参加、散歩時の挨拶、買い物での会話を交わし、施設見学や中学生の体験学習、ボランティア、友人知人の面会等を積極的に受け入れてきている。また、民生委員や地域住民の協力も得られるなど、地域の一員として良好な関係を構築しているが、新型コロナウイルスの感染対策として、現在は外出やイベントへの参加、ホームの行事時の家族や住民との交流は自粛している。野菜を頂いたり、地域住民から寄せられる認知症対応等の相談には専門性を生かして丁寧に助言するなど継続している。

管理者及び職員は、ホームの理念に「家族です。みんなで明るく、協力し、助け合い、笑顔で語り合える家族としてあなたをお支えます」を掲げ、玄関に掲示して周知を図っている。「利用者は家族」であることを常に意識して、尊厳や人格、想いを大切にケアに努めている。利用者及び家族からの意向や要望を、ケアの中や面会、電話、ライン等で把握し、ユニット会議やミーティング等で協議して改善を図っており、家族との信頼関係が築かれている。日々の生活も利用者の心身の状態や生活習慣に配慮し、意向に沿って個別の支援にも取り組むなど、利用者主体の生きがいのある暮らしとなるよう努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき、運営推進委員、近隣の方々の協力を得ながら、事業の理解と共有を図り、地域の中の事業所として定着化を図る。	開設時に作成したホームの理念を目に付きやすい玄関に掲示し、日頃のケアの中やミーティング等でケアの振り返りや意見交換等を行って意義を共有し、「利用者は家族」を常に意識し、地域の協力も得ながら理念に沿った支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の代表の方々と意見を交わしながら日常的な交流を目指している。	開設以来、地域との交流を大切に取り組んできており、自治会に加入して地域の情報の把握し、イベント等への参加や外出時の会話、ボランティアによる慰問等を積極的に受け入れるなど地域の一員として円滑に交流する関係が構築されているが、現在は、コロナ禍に配慮して買い物や外食、外出、行事への参加等は自粛している。面会は窓越しに短時間で実施し、野菜を頂いたり訪問美容、住民からの相談への対応は継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	積極的に地域行事に参加し、住宅地にある関係から近隣との関係構築を重視している。認知症介護についての相談等も積極的に実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議（書面にて）開催し、（新型コロナウイルス感染症流行の為）利用者様サービスの実績評価への取り組みについて話し合いサービス向上に取り組んでいる。	従来、会議は、家族や民生委員、自治会長等が参加して定期的に開催してきたが、コロナ禍に配慮して現在は一堂に会することは控え、利用者の状況や活動内容等を資料にして委員に届けて意見や助言を頂いている。職員は意見の内容を共有しミーティング等で検討して改善を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、市役所の職員と意見交換、情報交換を密に取り、市担当課の指導のもと、電話等で相談を行っている。	介護保険の更新や各種制度の申請、報告、運営やケアに係る相談、感染症予防に関連する協議、生活保護受給中の利用者（6人）の処遇に関する調整等を行って指導や助言、提案をもらうなど、市担当者とは密に連携して協力関係を築いている。地区介護事業所連絡協議会主催のリモートによる会議や研修会にも参加して、サービスの向上を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	厚生労働省が定める「身体拘束ゼロの手引き」を参照に、施設内研修の実施、外部研修を取り入れ、介護の実践に取り組んでいる。	身体拘束や虐待をしないケアへの取り組みについては計画的に研修を実施して周知を図り、ユニット会議や毎日の申し送り時に振り返りや意見交換を行って拘束の無いケアに取り組んでいる。身体拘束適正化の指針を整備し、毎月のミーティングの中で資料や事例による勉強会を実施している。守りや寄り添いに努め、利用者の思いを汲み取りながら尊厳や個性を大切にされた支援に努め、不適切な言葉等には注意し合うなど、日頃から改善に取り組んでいる。成年後見制度を活用中の利用者（1人）については、後見人との連携に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づき、定期的に研修を行っている。いかなる時も拘束に繋がらないよう職員とケア会議を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、入社時にオリエンテーションの一環として研修を行うとともに、制度の理解と実践は内部研修などで必要性を話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、入居当日に重要事項説明書にのっとり、説明を行っている。解約、改訂に関しても、十分な説明を行い理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の施設訪問、面会時に意見、要望などを訪ね、運営に反映させている。	利用者との日頃の会話や表情、仕草等で想いの汲み取りに努め、家族からの意見や要望は面会や電話、LINE、写真の送付、「詩音だより」等で利用者の状況を伝えながら聞き取り、内容を職員全員で協議して改善に繋げている。現在はコロナ禍に配慮して、イベント等への家族参加は控えてもらっているが、面会は窓越しで5分程度、実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングに代表者が参加、個人面談は理事・事務長が実施し職員の意見を聞く機会を設け、運営に反映している。	管理者及び職員は、年齢差を気にせず気軽に意見を言い合える良好な関係を構築しており、日頃の業務の中や申し送り、ユニット会議、ミーティング等で意見や要望を出し合い、管理者は状況に応じて個人面談による相談等も受けており、全員で検討して改善を図っている。ケアに関する助言やスキルアップを図る勉強会を実施し、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに努め、法人による給与体制の確立や外部研修受講時の経費の助成はモチベーションアップに繋がっている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の個々の資格や家庭環境を考慮し、給与決定、昇給、勤務形態、処遇条件などを決定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>市町村、大隅地区介護連絡協議会等の主催する研修会に参加し（リモート等）、その内容を職員で共有すると共に、さらに上を目指すための資格取得を推進している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護連絡協議会の加入により、ネットワークの構築、研修会を通じての情報の収集、施設間相互関係の構築を図り、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、居宅、医療機関からの情報提供書による把握を行うとともに、本人ご家族との面談を行い、要望希望の確保に努め、利用者の安心安全の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階より、家族、本人の思いを聞き取り、継続した介護ができるようにケアプランを立案し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としているニーズを把握し、必要な支援の選定、家族の了解の上で、フォーマル、インフォーマルな支援の協議、他のサービス利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	潜在能力、残存機能を導き出せる支援の選定、日常生活の中での本人のできる役割の発見に努め、相互関係のもとで生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様を介護される一方の立場に置かず、本人と家族がいつでも連絡や面会が出来るようにしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を把握し、その内容をケアプランに反映させると共に、家族、友人、知人の訪問、馴染みの場所への外出支援に取り組んでいる。（新型コロナウイルス感染症流行の為、窓越しの5分間の面会とさせて頂いております。）	利用者各人の馴染みの情報を把握し、通常は近辺の散歩や買い物、通院、一時帰宅、外食、墓参等を家族の協力を得ながら意向に沿って支援しているが、現在はコロナ禍に配慮して、買い物や外食、外泊等は控え、家族とは窓越しでの面会や電話、LINE、手紙の取り次ぎ、写真、「詩音だより」の送付等で関係継続に努めている。天候や体調に配慮しながら、少人数でドライブして馴染みの町や景色を楽しんでもらい、また携帯電話を所有している利用者は日常的に家族と会話している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別的援助の中で、役割分担、利用者同士の関係構築のため、レクリエーション等でコミュニケーションが取れるよう、職員が間に入り、相互間の円滑な交流が図れるように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス相談窓口として、管理者が退去後も積極的に相談・支援を行える体制を取っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネジメントの基本である『利用者本位』を尊重したケアプラン作成に努めている。また、アセスメント実施時には、希望や意向を本人若しくは代弁者として把握に努めている。	認知症の重度化に伴いコミュニケーションが難しい利用者もいるが、日頃の会話や仕草、独自のサイン等から思いの汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら、利用者主体の安全で生きがいのある暮らしの支援に取り組んでいる。利用者の意向に沿って編み物や新聞折り、テーブル拭き、洗濯物たたみ等の取り組みを残存能力に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には評価や感謝の言葉を添えて達成感が得られるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族との面談、情報提供書などを参考に、生活や今までの暮らしの実態把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にケースカンファレンスを開催し、生活全般の課題や本人の有する能力の把握、共有化を行い、心身の変化時も早急に対応、支援できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または随時のアセスメントにおいて、本人・家族のニーズの抽出、意見の傾聴に努め、各種専門職からの助言を受けながら、チームケアで、サービスの在り方、生活目標を立案、作成に努めている。	日頃の関わりの中や電話等で、利用者や家族の思いや意向を把握し、主治医の指示やカンファレンス、モニタリング時の職員の意見を基に残存機能や習慣、趣味等にも配慮した介護計画を作成している。利用者の状況変化時は計画を実態に沿って変更し、家族の理解も得て改善に取り組んでおり、実施状況はバイタルのチェック表や業務日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録にその日の必要とする情報を記録している。その情報をもとにケアカンファレンスを実施し情報の共有や介護支援計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人等を取り巻く環境の変化や多様化するニーズについては、随時相談を受け、サービスの共用化を図り、多岐にわたるサービスの紹介、提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を文えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所として地域密着を重視し、地域資源の活用や事業自体を地域資源と捉え、本人が心身共に安全で豊かな暮らしが営めるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療を行っている。また、かかりつけ医との連携を図り適切な医療が受けられるよう支援している。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しているが、利用者の殆んどが協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療（月2回）が実施され、他科受診も家族と協力して実施している。協力医療機関との24時間医療連携の体制を構築して相談や早期治療に努め、週1回、看護師の訪問により衛生や健康管理を徹底しており、健康状態は家族にも密に報告していることで利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	訪問看護や看護職員が利用者様の状態を把握し、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	事業所と入院先、医療機関等において、情報を共有できるようサマリーを作成し提供している。また、入院先に定期的に電話連絡し、主治医や看護師より情報提供を受けている。急性期から状態が安定期になり、通院等が可能な場合は、退院支援を行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	当事業所においては、終末期の看取り介護に取り組んでおり、入居当初より終末期に対する考え方の確認を行い、段階に応じた医療支援や介護支援が行えるよう、主治医を含めた家族、関係機関との連携を行っている。	利用開始時に、本人や家族に重度化や終末期の対応を指針で説明して理解を得ており同意書ももらっている。入所後は病状に応じて随時、話し合いや意向の確認を行い、可能な限り家族の想いに沿ったケアを看護職員を中心にチーム体制で取り組んでいる。入所中の利用者も看取り希望が多く、昨年も家族と協力して3人の看取りを実施しており、実施後は振り返りや意見交換も行ってスキルアップを図っている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	看護師における初期対応及び応急処置の講習で実践力の向上に努め、緊急時マニュアルを作成、連絡網も整備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>市の非常災害対策を基にマニュアルを作成。</p> <p>年に二回の避難訓練及び、消火訓練を実施している。また、近隣住民との協力体制を整備している。</p>	<p>災害対策についてはマニュアルを整備しており、年2回（うち1回は消防署立ち合い）、夜間想定を含む火災発生を想定した通報、避難、消火等の訓練を実施している。日頃から通報や避難経路を確認し、災害事例を話題にしながら対応を確認するなど認識を共有している。自動火災報知機やスプリンクラー等が設置され、ラジオや卓上コンロ、ヘルメット等を備え、食料品、飲料水、介護用品も備蓄している。コロナ終息後は地域住民の災害訓練への協力依頼も検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間らしい生活を送っていただくために、一人一人の人格を尊重し、優しく丁寧な言葉かけを実践している。	人格や誇りを損ねる事の無いように研修の実施やケアの振り返り、意見交換等で認識を共有し、利用者の生活歴や習慣等にも配慮しながら自己決定を尊重した支援に努めている。ホームはプライバシー保護に配慮した構造になっており、入室時は必ず声掛けやノックを行い、衣服の着脱や排泄、入浴時のケアは羞恥心にも配慮して適切な声のトーン、優しい言葉遣い等に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を傾聴すると共に、自己決定の尊重に努め、生活習慣、本人が大切にしていることを日常に反映できるよう代弁者となり支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく可能な限り自立した日常生活を送れるよう、計画作成担当者が作成する日課を、その時の状態に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日々の更衣に関しては、可能な限り自己選択して頂き、できない方は、生活歴を反映した衣類を選択し、身だしなみと動きやすさを優先して配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼、嚥下状態に合わせた食事形態による食事の提供に努めている。また、季節や行事食の提供、片付けの共同作業にも務めている。	食事は利用者の何よりの楽しみで、関心も高く要望も多いことから、好みや栄養バランス、形態、季節感、疾病に伴う摂取制限、代替品等に配慮したメニューで調理し、利用者もテーブル拭き等を楽しみながら行っている。おせちや節分、お盆、敬老会、クリスマス等の行事食や手作りのおやつ（ホットケーキ、ふかし芋等）、冷凍のクックデリー、外出時にドライブスルーのハンバーガー購入等、日々工夫し、利用者ごとの摂取量も把握しているが、コロナ禍に配慮して外食や家族との会食等は自粛中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録管理し、捕食の提供に努めている。疾病に応じ、医師からの指示があった場合はできる限りの特別食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、能力に応じた口腔ケアの実施、口腔内の状態に合わせた物品の使用を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の生活パターンやしぐさをキャッチし随時のトイレ誘導。夜間帯においても睡眠を妨げない範囲で排泄支援実施。排泄用品の使用も一人ひとりの意思を尊重したケア用品等を使用している。	利用者の自尊心や習慣、羞恥心等に配慮し、身体の状態やパターンに応じた支援をプランに反映させて支援している。各ユニットに3か所のトイレが設置され、声掛けや誘導、センサー（家族は了解済み）も活用して、可能な限りトイレでの排泄を支援しているが、夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいる。介護用品やケアの方法を利用者の状況に応じて工夫し、便秘の予防に植物繊維の多い食事や牛乳、水分の摂取に配慮して自然排便に努めており、状況によっては主治医にも相談して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、排便の確認をしている。1日必要量の水分確保や繊維の多い食事、牛乳等を提供し、便秘予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>週2～3回の入浴の機会を設けている。本人の要望の入浴方法、時間の配慮、季節に応じた入浴を実施し、入浴を楽しみの一つとしている。</p>	<p>基本週2～3回の入浴を支援しているが、排泄時の汚染等には、その都度、シャワー浴等で清潔を保っている。温度や時間、習慣、同性介助、好みのシャンプー等は柔軟に対応しゆず湯も実施している。浴槽は個浴用の3倍ほどの大きさで、利用者は「温泉みたい」と喜んでゆっくり楽しんでおり、入浴後は水分補給や軟膏塗布等を支援している。現在、入浴をためらう利用者はいないが、今後入所した場合は無理強いしないで時間の変更や声かけ等を工夫し、利用者自身の意欲を汲み取りながら支援する意向である。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>生活習慣の把握による日課の作成で日常生活を支援。また、その日の体調により支援を行い、自由に過ごしていただけるよう工夫している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>主治医、薬剤師に専門的アドバイスの基に、服薬支援を実施している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>事業所で企画、実施するレクの他、趣味や生きがいを考慮した活動の実施の他、一人ひとりが有する能力を生かした役割を担って頂き、日常生活を楽しんでいただけるよう支援に努めている。(新型コロナウイルス感染症流行の為、外出支援は、3密を避ける為中止している事も多い)</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症流行の為、外部との接触、3密を避け、職員と外出をする時は、時期、時間等を配慮し支援を行っている。季節行事は、施設内で行事食を提供し、飾りつけをしたり工夫している。地域の行事参加、家族との外出については、中止させて頂いております。	コロナ禍のため感染予防対策を徹底し、利用者の心身の状態にも配慮しながら、初詣や少人数でのドライブ等を実施して季節の花や馴染みの街並みの風景を楽しむ工夫しているが、一時帰宅や外泊、外食、墓参等の外出は控えている。地域のイベントの殆んどが中止され、ホームの行事も計画通りには実施できない現状であるが、ホーム内で作品の飾りつけや軽い体操、音楽、テレビ視聴等、工夫してリフレッシュを図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと、自己管理によるお小遣い等の所持を推奨している。自己管理の難しい利用者様は、施設で現金を預かっており、必要に応じ買い物と一緒に出掛ける買い物支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の希望がある時は電話をしたり、電話の取次ぎなども行っている。携帯電話購入し、ビデオ電話、ライン等を利用しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が利用者様にとって不快や混乱を招くような刺激がないよう配慮し、居心地良く暮らせるようにしている。	利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは明るく、畳（6畳）部分も設けられるなど余裕あるスペースが確保されており、テーブルやソファ、テレビ等の家具が動線や利便性に配慮して設置されている。書初め等の作品や季節感のある飾り物、イベント時の写真等が飾られ、対面キッチンからは調理の音や臭いが伝わるなど家庭的で和やかな雰囲気である。清掃や空調、整理整頓、感染予防対策等を徹底して快適な環境になっており、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間であるが、その日、その時に過ごしたい場所でゆっくりと寛いでいただけるよう、空間の確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族と相談しながら使い慣れた物や、好みの物を活かして本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室はフローリングに腰高窓の構造で、余裕ある広さが確保されて明るく、エアコン、ベッド、タンス、洗面台が備えられており、利用者の心身の状態や意向に添って配置している。利用者は自宅で愛用していた寝具やテレビ、衣類、位牌、家族写真等を持ち込み、自身の作品や誕生日祝で頂いた色紙等も飾って、家庭同様に居心地良く過ごせる環境になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりができる事や分かる事を活かして、安全かつできるだけ自立して生活が送れるように工夫している。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない